

テーマ：タスク・シフト（静脈路確保）推進の仕組みづくり

部署：本院 医療安全管理部会、感染制御課

発表者：小谷 薫

【はじめに】

タスクシフト/シェアを進めていく中で医療安全を確保しつつ、関係職種の不安解消に、知識・技能の担保が不可欠である。今回、臨床検査技師、診療放射線技師が新たに担当する静脈路確保業務に必要な知識・技能習得のため、教育研修プログラムを企画した。目的は、スタッフが安全に恵寿タスクシフト/シェアメンバーとして活躍できることである。

【方法・課題・目標】

臨床検査課の片倉技師、高木技師、診療放射線課の坂下課長、山下係長、谷田部感染管理者、医療安全管理者らとともに打ち合わせを行った。

課題：当院での新たな取り組みである“タスクシフト/シェア”を理解し、安全を最優先に実施することへの認識を持つ。

目標：『全員が安全にタスクシフト/シェアメンバーとして活躍できる』プログラムを作る。

方法：

1. 厚生労働省の定める研修を受講
2. 院内研修（知識）①ナーシングスキル（静脈注射穿刺、静脈内注射 輸液管理）②医療安全「静脈路確保の際の神経損傷」「神経損傷が疑われる事象発生時の対応」③感染管理「感染予防策」「針刺し防止対策」
3. 院内研修（手技）①シミュレーター研修2回以上（看護師が傍につく）実施後、スキルチェック全てA判定 ②スタッフ同士での実施 スキルチェック全てA判定：患者への実施許可 ③患者への実施 現場の看護師が最低1回確認

【実施（活動・対策）内容】

対象：臨床検査技師 17名、診療放射線技師 15名（計32名）

研修期間：5月、6月、7月、8月の火、水、木 16：00～17：00

内容：シミュレーター研修・実技研修を、毎回4～5名ずつ行った。

実技研修はスタッフ同士で行うため、研修実施に際して、スタッフの安全を確保するために『静脈路確保実技研修に関する同意書』（以下『同意書』）を作成し、同意を得た。

判定基準：判定看護師（管理者）が行い、シミュレーター研修2回以上実施後、スキルチェックテストを受け、必要22項目全てA判定取得。スキルチェックは安全、感染防止、5Sを重点的に行った。スタッフ同士での実施では、前述の22項目A判定をもって『恵寿仮免許』取得とした。最終段階として、現場での看護師の元で患者へ実施とする。以上クリアにて『恵寿免許』取得とした。実施できる体制整備：「患者認証・実施」「注射ラベル発行」のアイコン設定を情報管理課に依頼した。

【結果】

研修プログラムを作成し、タスクシフト/シェアメンバーとして活躍できるメンバー育成が構築できた。また、シミュレーター研修は32名全員終了した。スタッフ同士での実技研修は、29名『恵寿仮免許』取得し、『恵寿免許』取得者は5名となった。

【考察】

研修プログラムに各課スタッフの全員参加が得られ、意識の高さをうかがうことができた。研修プログラム実施では『安全な実施』に重点を置いた。スタッフ同士の実施では『同意書』を作成することで、スタッフの安全を守ることができた。また、患者に理解していただけるような説明と同意は若手、ベテランスタッフそれぞれ、表現は異なるが十分な説明が行われていた。また、重点項目である3項目「患者安全 感染防止 5S」を繰り返し伝えることで、スタッフへの浸透ができたと考える。

【今後】

- ・ 質の担保のため、繰り返し技術確認ができるシステムを作る（希望者への再研修実施）。
- ・ 今年度、受講したスタッフへ教育研修プログラムに関する調査を行い、今後活かしていく（ブラッシュアップ）。
- ・ 次年度より、各課新入職員への研修として行っていく。